

あの夏は悲しくて泣いたけれど
今日は、君がくれた愛の優しさに
……涙をこらえきれない!

<カラー作品>

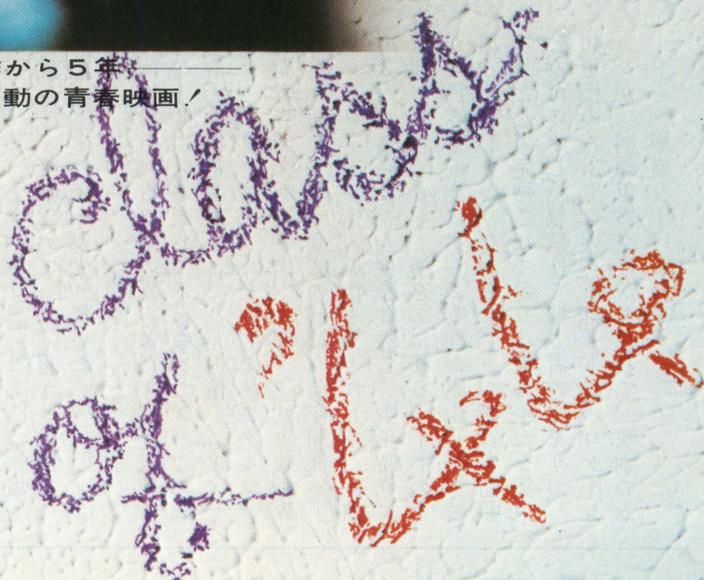
続 おもいで夏



青春のバイブルと名作の評価を高めた前作から5年——
あの夏の陽と涙が再び若者の心をさらう感動の青春映画!

ゲーリー・グライムス
ジェリー・ハウザー
オリバー・コナント
デボラ・ウィンタース
製作/監督ポール・ボガード
脚本ハーマン・ローチャー

 日本ヘラルド映画



●製作・監督／ポール・ボガード
 ●脚本／ハーマン・ローチャー
 ●撮影／アンドリュー・ラザロ
 ●音楽／デビッド・シャイアー
 日本ヘラルド映画 Herald



◆ゲアリー・グライムス
 ◆ジェリー・ワウザー ◆オリバー・コナント
 ◆デボラ・ウィンタース
 ◆ウィリアム・アザートン ◆サム・ボトムズ

＜カラー作品＞

続 おもいで夏

CLASS OF '44

■前作「おもいで夏」
 第2次大戦のさなか、思春期を過す少年の、
 年上の女性への思慕を美しい映像のなかに描
 いた名作。高校生のハーミーはニューイング
 ランドの浜辺で夏のバカンスを過ごしていた。
 人一倍異性に好奇心の強い彼は、いつしか美
 しい人妻ドロシー（ジュニア・オニール）
 に魅かれていった。彼女は夫が出征している
 だけで暮らしていた。ある夜ハーミーが彼女の
 部屋を訪ねると、夫の戦死の電報が届いてい
 た。その夜2人はお互いの愛を確かめあつた
 のだが、眼には涙があふれていた。翌朝ハー
 ミーは去っていった。長い夏が終り、新しい
 季節が始まろうとしていた。

■そしてあれから2年……
 高校生活を終えた彼等3人は、いま新しい
 世界へ旅立とうとしていた。ハーミー（ゲー
 リー・グライムス）とオスキー（ジェリー・
 ハウザー）は大学へ入学し、ベンジー（オリ
 バー・コナント）は海兵隊に志願して去って
 いった。ハーミーとオスキーにとっては初め
 ての両親から離れた下宿生活。2人は同じ下
 宿の部屋に落ち着いたが、予想以上に厳しい規
 則や学業にとまどってしまった。オスキーは
 すぐに学業に興味を失い、フットボールに熱
 中し、他方ハーミーは入部しようと思ってい
 た新聞部の女性ジュリー（デボラ・ウィンタ
 ース）と恋に陥入った。ジュリーは自尊心が
 強く、気の強い性格の女性だったが、知的で
 大人びたその美しさにハーミーはいつの間
 にか惹かれていったのだった。

■試練多き学園生活
 やがてハーミーはジュリーのすすめで大学
 内の友愛会に入るようになった。友愛会に入
 るのもっと自由で待遇のいい寮に入れるのだ
 が、この入会式が大変だった。上級生に生タ
 マゴを頭からぶつけられ、狭い電話ボックス
 に十数人詰めこまれ、氷塊に埋められたオリ
 ーブを尻で持ち運ばされたりするのだった。
 屈辱的な入会テストだったが、試練に耐えた
 男のしるしとして入会記念の鈴を贈られた。
 ハーミーはその鈴をジュリーに贈り、2人は
 お互いの愛を確かめあうのだった。

■友と別れ、愛に傷つき、父の死に出会う
 その間にオスキーは女を連れこんだのがば
 れて、退学処分になれ陸軍に入隊し、ハーミ
 ーのもとから去っていった。ハーミーは自信
 のない試験をカンニングで切り抜けようとし
 ていた。毎日日々がなんとなく落ち着かない
 というのもジュリーのところに昔のボーイフ
 レンドが帰ってきて、ハーミーは嫉妬から彼

女といさかいを起こしてしまったのだ。そん
 なる日、突然ハーミーの父が急死したとい
 う不幸が起こり、葬儀のために実家に帰った
 葬式が済んで亡き父の面影をしのいでいたと
 ころへ、「葬式にまにあわなくてすまん」と
 いいながらオスキーが訪ねてきた。2人は何
 もかも忘れ、親友のベンジーのことを思いな
 がら乾杯した。それは固い友情のしるしの乾
 杯でもあり、少年時代への別れの乾杯でもあ
 った。わけもなくハーミーの眼には涙がにじ
 んでいた。

翌日ハーミーは大学へ帰って行った。駅に
 降り立つとジュリーが車で迎えにきていた。
 「私が悪かったわ、ごめんなさい。試験はパ
 スしたわ。おめでとう。」というジュリーのや
 さしさに、ハーミーは涙をこらえきれなかつ
 た。ハーミーとジュリーはいまおとなの愛を
 実感として受けとめていた。暗がりの道に一
 筋のヘッドライトが光っていた。

※ ※ ※
 前作の「おもいで夏」は71年度全米興行
 ベスト3に入る大ヒットとなったが、この成
 功が大きな刺激となって、「追憶」「アメリ
 カン・グラフィティ」といったノスタルジッ
 クな青春回顧映画のブームがアメリカ映画界
 に巻き起こった。今度の続篇も前作同様ハー
 マン・ローチャーの原作をもとにして、主演
 の3人があらたな人生を体験し、少年時代に
 訣別していく姿を、情感あふれるムードのな
 かで描き、前作に劣らぬ秀作が誕生した。続
 篇という形をとりながらも、一つの青春回顧
 映画として完結されており、さわやかな笑い
 とみずみずしい叙情性で観る者の心をうつ。
 40年代のムードを残すトロントでのロケーシ
 ョンが、回顔色あざやかな色彩で、映画のム
 ードを一層盛り上げている。